

# 30年あゆみ

社団法人 北海道電業協会

社団法人北海道電業協会創立30周年  
社団法人日本電設工業協会北海道支部  
創立40周年を迎えて



(社)北海道電業協会 会長  
(社)日本電設工業協会 北海道支部長 斎藤 正安

(社)北海道電業協会は昭和42年に創立され、お蔭様で満30年の節目を迎えました。また、それに先立ち発足している(社)日本電設工業協会北海道支部も満40周年を迎えることができました。

創立時は会員41社とのことであります、現在は会員85社、地方団体9地区（構成企業数256社）を数えております。そもそも協会と支部とは事業活動に共通点が多く、以前から一体運営を心掛けており、特に近年はそれを徹底していることから、支部の正会員・賛助会員を含めますと、本協会は実質370社を越える企業の団体であり、北海道電気工事業協同組合と並んで、北海道の電気設備工事の中核的団体に成長したということができます。

これもひとえに長い間に亘るお客様の温かいご支援、関係諸官庁の適切なご指導、関係友誼団体のご協力のお陰であり、その上に立って会員各位が絶え間ない努力を続けてきた結果であります。創立30周年を迎えて関係各界の皆様に深く感謝いたしますとともに、今日の基礎を築かれた諸先輩に深い敬意を捧げるものであります。

「電設協支部」は全国的な流れを受けて昭和31年に発足しておりますが、「電業協会」の前身は昭和37年に発足していた「北海道電設懇話会」であります。36年代の後半から40年代にかけての経済の発展と技術革新の進展を受けて、業界の結束と地位向上を図り、広く社会に評価される団体を目指し、社団法人の認可を得たものであります。これは「東京電業懇談会」の法人化に次ぐ全国二番目の快挙だったとのことです。引続き翌年には早く現在地での会館建設に踏み切り、今なお協会活動の拠点として有効に機能していることを考えますと、当時中心となって努力された先輩各位の識見と熱意に今更乍ら頭の下がる思いであります。

日本経済は、40年代の高度成長期から、二度に亘るオイル・ショックの影響を受けた50年代の不況期、この不況を克服して再びバブル経済の盛り上がりを見せた60年代初期、バブル崩壊後現在も続いている平成の不況期と、糸余曲折を経ながら成長してまいりました。

我が業界もこれら好・不況の波に揉まれながら多くの困難をその都度克服し、発展してまいりました。特に平成に入ってからは、長い間続いてきた入札・契約制度を始めとする諸制度が次々と改変され、不況の克服とこれらへの対応に努めてまいりましたが、今や21世紀に向けて新しい魅力ある電設業界を如何に構築していくかが大きな課題になっております。特に北海道では従来の中央依存体質から脱却し、自立経済を目指す動きが各方面で拡がってきております。我が協会としても創立30周年を迎えた今、創立当時の諸先輩のフロンティア精神に思いをいたし、中央や地方との連系を深め、会員相互の信頼と結束をより一層強めることにより、北海道のライフラインの一翼を担う誇りと責任を自覚し、真に道民から信頼される団体を目指して活動を展開していく所存であります。

このたび、これまでの協会の足跡を聊か振り返り小史を取りまとめるにいたしました。この小史が当協会をご理解していただくための一助になれば幸いに存じます。

これまでの業界発展に尽くされた諸先輩に深く感謝いたしますとともに、関係各界のみなさまの從来にましてのご支援・ご鞭撻を衷心よりお願い申し上げます。

社団法人北海道電業協会  
創立30周年によせて



北海道知事 堀 達也

社団法人北海道電業協会創立30周年を心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和42年に創立以来、電気工事業の健全な進歩発展をめざして、技術革新への対応や経営の近代化に積極的に取り組まれ、業界の発展に多大な成果を上げてこられました。歴代会長をはじめ、役員の方々、会員の皆様の長年にわたるご尽力に心から敬意を表します。

最近の電気工事業界は、住宅着工にも陰りが見え、依然厳しい状況が続いておりますが、今後、さらに建設産業相互の競争はもちろんのこと、国内の他産業との競争が強まると思われます。その取り巻く環境は大きな転換期を迎えており、経営基盤の強化や技術開発の推進、技術者・技能者の育成などが課題となっています。

道としても、中小企業の経営安定や企業体質の強化を図るため、融資制度や人材育成への支援など、様々な対策を講じていますが、今後とも、施策の充実に努めてまいります。

電気工事業界は、これまででも、国民生活に密着したライフラインの一翼を担い、社会基盤整備と快適な生活環境を守るという大変大切な役割を果してきました。近年、社会资本整備については、快適性や利便性、安全性が強く求められており、施設、建築物における電気を含む設備のウエイトが非常に高いことから、その役割はますます重要になるものと考えています。

創立30周年という意義深い年を契機に、貴協会が業界としての結束をさらに強められ、国民生活と産業活動の基盤づくりを担う基幹産業としてさらに大きく発展されることを心からお祈りして、お祝いの言葉といたします。

## 祝　辞



(社) 日本電設工業協会 会長 小牧正二郎

北海道電業協会は、昭和42年7月に、社団法人として北海道知事の許可を受け、今日30周年を迎えたことを心からお慶び申し上げます。

さて、創立以来たゆまぬ努力を重ねられ名実共に電気設備工事業界の中心的役割を果され、常に業界のリーダーとして文化向上の一翼を担い、適正な工事の施工に務め地域社会の発展に寄与されました。

また、施工技術の向上を理念として、技術者教育、労働安全衛生教育、経営の合理化などその運営に幅広く取り組まれ、昭和42年4月には団体会員として本会に入会され、地域の現況を中央に反映されるなど多くの功績をあげられました。これは、会長を始め会員各位のたゆまぬ努力の結果であります。このご尽力に対し心から敬意を表するものであります。

今日日本経済の環境はきびしく、政府は、行政改革、財政構造改革など6つの改革に取り組んでおられますことはご案内のとおりであります。

建設業界は、その一環として、さきに決定された、公共工事コスト縮減と公共事業の削減であります。我々業界としては、日本の経済発展を担う基幹産業として、これらの施策に対し積極的にその役割を果さなければならないと考えますがきびしい環境におかれています。

また、建設業に係る基本問題について更なる改善を図るために検討を中央建設業審議会において進められており、入札・契約に係る透明性の向上を始め、今日業界がさけて通れない課題について検討中であります。より良い改善が図られる様期待申しあげるものであります。

我々電設業界としては、建設業界をとりまくきびしい環境に対応するため常に意を配り透明性を確保し、施主のご理解をいただき、分離発注をお願いし、責任施工体制のもとで良質な成果物を提供することで分離発注は、法律の目的にもつながることとなります。各界のご理解とご協力をお願い申しあげるものであります。

貴協会におかれましては、北海道支部会員と表裏一体の会員関係が保たれ、経営の合理化、雇用の確保、労働安全衛生及び技術革新を図り、「活力」と「魅力」ある業界として北海道発展に寄与される様期待申しあげるとともに地位向上に尽力される様祈念申しあげ、30周年を迎えたお祝いの言葉といたします。